

「自粛」と補償はセットで

緊急地域経済対策を大阪府に要請

大阪自治労連は3月19日、大阪府商工労働部に対し、「新型コロナウイルス」の感染拡大が全国的に広がるもとで、大阪における地域経済に関する緊急要請書を提出しました。

大阪府からは、商工労働総務課、経営支援課、労政課の担当職員が対応しました。

「新型コロナ」対策で申し入れ



3月19日、大阪府商工労働部へ申し入れる有田委員長（中央）と荒田副委員長（左）

融資拡大、大胆な助成金制度、休業に伴う生活補償を

緊急要請の内容は、実効ある中小企業支援で大阪経済の立て直しです。府は緊急融資等の支援策を打ち出していますが、無担保・無利子でも借りられない状況があります。補助金や助成金など大阪府独自の施策を緊急に実施することや、所得減少に伴う減免制度活用で国保料等の大幅減

「もうこれ以上仕事を休めない」

免を求めました。また、カジノIRや大阪市廃止の「都構想」ではなく、住民の暮らしと中小企業を支援して、府民全体の力で元気な大阪をつくることを求めました。

国・府・市町村は早急に思い切った支援策を

「補償なければつぶれてしまう」

重なる、雇止め解雇が発生しており、生活権を奪われています。また、個人事業主、フリーランスの人々も収入が途絶え、生活困窮に陥っています。今後も、中小企業の倒産が増えれば、失業者問題が



4月8日付の毎日新聞朝刊

「新型コロナの影響」に正規も非正規もない

すべての労働者の生活を支える施策を一日も早く

休校延長

社会的に広がり、いっそうの景気悪化と格差と貧困がさらに拡大される不安があります。政府や大阪府、市町村は思い切った生活支援策を早急に講じる必要があります。

売上激減

府商工労働部は、「労基署とも情報交換しながらすすめていく。景気の落ち込みはリーマン・ショックに近い状況にある。その経験も教訓にしながら進めていきたい」と答えています。

カジノ誘致NO!

4万1747人分の署名を提出



IR推進局に署名を提出する有田委員長

「カジノに反対する大阪連絡会」は3月25日、大阪府知事、大阪市長あての「カジノ誘致に反対し、暮らし・福祉、防災対策の充実を求める」要請署名4万1747人分を提出しました。昨年までの提出分とあわせて、計8万5630人分となりました。

大阪府咲洲庁舎にある府市IR推進局が対応。提出には、大阪連絡会の団体と「カジノに反対する市民の会」、「どないする大阪の未来ネット」、全港湾関西地方大阪支部が参加しました。

大阪連絡会は、「カジノに使う税金はいのちと安全を守るために使うべき」の世論を広げ、引き続きカジノ誘致を断念させるため、署名運動を強めます。

「新型コロナ」世界的に感染拡大

NPT再検討会議は延期 原水爆禁止世界大会inニューヨークも中止 引き続き核兵器廃絶へ取り組み進めよう

「新型コロナウイルス」の世界的な感染拡大を受け、アメリカ・ニューヨークの国連本部で4月下旬に開催予定の核不拡散防止条約(NPT)再検討会議が延期となりました。また、原水爆禁止世界大会もニューヨークで開催予定でしたが中止となりました。大阪自治労連としては、4人の代表が参加予定でした。今年の再検討会議は「核兵器なき世界」の重要性を再確認する場になることが期待されていました。今後、夏の国民平和大行進や8月の



2015年のNPT再検討会議への要請行動

原水爆禁止世界大会・広島にむけて、引き続き「ヒバクシャ国際署名」を推進しましょう。

今月のキーワード

八十八夜

「♪夏も近づくと八十八夜」の歌を聞いたことがありますか？タイトルは「茶摘(ちやつみ)」です。八十八夜は春から夏に移り変わる節目の日。夏の準備を始める日。縁起のいい日といわれています。農家では八十八夜を過ぎれば晩霜(ばんそう・初夏のころに降る霜)も終わり、気候が安定することから、種まきや茶摘みなどが始まるのです。今年は5月1日です。

今月のキーワード

フリーランス

企業や団体、組織に属せず、自らの技能などを提供して社会的に独立した個人事業主のこと。仕事に応じて自由に契約するジャーナリストや俳優・歌手などもフリーとかフリーランスといひます。直訳すると「自由な槍」。なぜ「ランス(槍)」という言葉を使うのか。その由来は中世ヨーロッパの傭兵といわれています。傭兵は報酬や戦う意義に納得すれば国や民族に関係なく、どの国の君主とも契約を交わして戦場へ出ました。